

日本臨床教育学会 第12回定期総会 議事録

2022年10月16日（日曜日）午前9時30分～10時40分、立命館大学朱雀キャンパス5階ホール（京都府京都市中京区西ノ京朱雀町1）において、第12回定期総会を開催した。

学会を代表して、庄井良信会長の挨拶があった。

大会実行委員会を代表して、春日井敏之実行委員長の挨拶があった。

議長団の選出を行った。会場からの立候補はなく、事務局推薦の加藤恵美子会員と中妻雅彦会員が選出された。

はじめに、渡邊由之事務局長から、総会の定足数の確認があった。

正会員数	361名	
会場出席者数		29名
オンライン出席者数		8名
委任状の提出者数		0名
	合計	37名

出席者が会員の過半数を満たさなかったため、学会会則第8条第2項により仮総会として実施されることとなった。

報告事項：

（1）第7期役員（理事）選挙結果

吉益敏文選挙管理委員長より、第7期役員（理事）選挙結果について、議案書に基づいて以下の点について報告された。

- ・2022年8月29日（月）9時30分より、東大阪大学こども研究センター観察室にて開票を行った。有権者345名のうち、投票者総数は111名、投票率は32%、無効投票は0票であった。
- ・得票上位の16名の理事候補者に就任意思の確認を行った。4名が健康及び年齢を理由として辞退されたため、選挙規定第12条第4項に基づき、次点者の繰り上げを行い、第7期役員として以下の16名が選出された。

池田 考司	（北海道教育大学）	（五十音順）
伊田 勝憲	（立命館大学）	
影浦 紀子	（松山東雲女子大学）	
春日井 敏之	（立命館大学）	
片岡 洋子	（放送大学千葉学習センター）	
佐藤 隆	（都留文科大学）	
庄井 良信	（藤女子大学）	
田中 孝彦	（日本臨床教育学会前会長）	
田中 昌弥	（都留文科大学）	
筒井 潤子	（都留文科大学）	

富田 充保 (相模女子大学)
廣木 克行 (神戸大学名誉教授)
福井 雅英 (滋賀県立大学)
吉岡 眞知子 (東大阪大学)
吉益 敏文 (豊岡短期大学)
渡邊 由之 (東大阪大学)

- ・今後、役員を選考において年齢や健康における考慮が必要であると委員会で意見が出たことが報告された。

この報告に対する会場からの意見・質問はなかった。

(2) 機関誌編集委員会から

山内清郎機関誌編集委員長より、議案書に基づいて以下の点について報告があった

- ・第10巻の発行予定が大幅に遅れていること、会員、関係者、投稿者、発表機会を求めている方々に対してお詫びいたします。
- ・第11巻編集委員会の構成としては、前年度と変更点はない。
- ・第10巻の発行について、発行が大幅に遅れており、現在、2022年10月末刊行を目指し印刷作業に入っている。特集を除く投稿論文は17本、審査の結果、事例研究論文1本、研究ノート3本、事例報告1本の計5本が掲載可となった。
- ・第11巻の編集状況については、特集テーマを「教育は家庭・家族が行うべきものであるのか」とする。投稿原稿は13本の変更を受理している。審査は10月末に終え、再査読を求める場合は、11月末日に修正稿の提出を予定している。修正稿の審査は1月初旬に通知予定。
- ・書評・文献紹介・海外の研究動向は、会員からも積極的に提出していただきたい。
- ・編集委員会の課題と要望として、論文を書きなれていない会員に対する支援体制の確立を今後の課題として検討したい。

以上の報告に対し、次のような質疑応答が行われた。

(間宮正幸会員) 機関誌の発行の遅れは問題である。第10巻がまだ発行されていない、そして11巻は2023年に発行するというのは、普通はないことである。この間の事情をお聞かせください。

(山内編集委員長) 編集委員長の責任が大きく、この状況は問題であると認識している。コロナに応じて普段とは違う対応を迫られ、普段通りの編集作業ができなかった。

(間宮正幸会員) 編集体制を充実させないとこの状況に耐えられないはずである。編集委員会体制についてどのようにお考えでしょうか。

(山内編集委員長) 編集計画の見直しや編集事務局の設置をするなどし、実務の役割分担を分け、編集作業を滞りなく進めていくことを考えている。

(間宮正幸会員) 具体的であるが、編集内容の理論的な問題や委員会での議論内容を会員は逐一把握していないが、この編集委員会体制でよいのかということを行っている。根本的な反省を理事会含めてしていただきたい。

(山内編集委員長) 採用の可否に関わる一定の基準に関しては個々の事例を言うことは難しいが、そこでの議論に関わる一定の基準を明示する体制を作れるかはここで答えられないが、そうした一定の基準を明示することができないか検討する。

(守屋淳会員) 北海道臨床教育学会では実践者からの投稿に関しては、投稿支援制度を設け、投稿者がそれを希望するかどうかを申し出てもらい、研究者がその支援にあたる制度を作っている。それを申し上げておく。

(井上大樹会員) 本学会は、査読者に対してこういう基準で見たいという細かい基準が出ているはずである。しかし、その通りで見ているかどうか、編集委員会として客観的に判断するということも行われているはずであるが、そういった部分が十分機能していないように拝察される。研究論文の問題はどこの学会でも問題になっており、学会内で勉強会やセミナーが行われるようになってきているため、基準も含めてオープンに検討することができるはずである。また、共通の基準が公開されていないとはいえ、明示はされているため、その通りの運用をすれば問題はないように思う。このような質問は、第2回定期総会でも寄せられたと思うため、そこからの改善が見られないと思われる。

(山内編集委員長) 研究論文では意見が分かれることは少ないが、実践研究に関する投稿論文に対しては、編集委員会内でも意見が分かれることはある。しかし、できるだけ基準を示すとともに、急いで改善させていきたいと考えている。

(3) その他

その他の報告事項はなし

審議事項：

(1) 第7期役員体制案

渡邊由之事務局長より、関連する会則・諸規定を踏まえ、議案書に基づいて、会長・副会長・事務局長・常任理事については第6期と変更なく、事務局体制のみ変更の旨、下記の通り提案され、原案通り承認された。

会長：庄井 良信 (藤女子大学) 2期目
副会長：池田 考司 (北海道教育大学)
田中 昌弥 (都留文科大学)
福井 雅英 (滋賀県立大学)
事務局長：渡邊 由之 (東大阪大学)
常任理事：春日井 敏之 (立命館大学)
田中 孝彦 (日本臨床教育学会 前会長)

監査：川谷 和子 (神戸教育短期大学)
根本 順子 (兵庫大学) 2期目

【事務局】

事務局長：渡邊 由之 (東大阪大学) 理事より選出 2期目
事務局次長：吉岡 眞知子 (東大阪大学) 理事より選出
事務局幹事：今井 美樹 (東大阪大学)
田邊 実香 (大阪松蔭女子大学)
二羽 礼 (東大阪大学)
吉益 敏文 (豊岡短期大学) 理事より選出

(2) 2021 年度研究活動報告

渡邊由之事務局長より、2020 年度の活動報告について、議案書に基づいて報告され、原案通り承認された。

(3) 2021 年度決算案

渡邊由之事務局長より、2021 年度の決算案について、議案書に基づいて報告され、原案通り承認された。

(4) 2021 年度監査報告

監査の根本順子会員より、監査報告書に基づき、適切な会計業務のもとに学会運営が行われている旨報告があり、承認された。

(5) 2022 年度研究活動方針案

渡邊由之事務局長より、2022 年度の研究活動方針案が議案に基づいて提案された。今年度の大きな変更点としては、特別課題研究 I「新型コロナウイルス感染症と臨床教育学の課題(仮)」の新設、研究論文支援委員会の設置、学習会・研究会の定期開催が盛り込まれた。審議の結果、原案通り承認された。

(6) 2022 年度予算及び 2023 年度予算

渡邊由之事務局長より、2022 年度の補正予算案及び 2023 年度の予算案について、議案書に基づいて報告され、原案通り承認された。

なお、現地実行委員より、本大会の開催規模について補足があった。対面 77 名、オンライン 43 名、院生スタッフ 13 名、計 133 名の規模で開催されている旨、報告があった。

(7) 第 13 回研究大会開催校について

渡邊由之事務局長より、現在、選定中であり、決定次第ホームページ等で公表する旨報告され、承認された。

(8) その他

その他の報告事項はなかった。

会の終わりにおいて、守屋淳会員より、会員が意見を述べることを想定した総会の時間設定を求める意見が寄せられた。それを受け、渡邊由之事務局長より、すぐに改善する旨、返答があった。

以上、予定されていた審議事項を終えたため、議長団が解任され、総会は終了した。

(なお、次に予定されていたシンポジウムⅡは、10 時 45 分からの開始に変更された。)